

## ワークス

もっとあなたの身  
近に！公文書館

## 公文書レポート

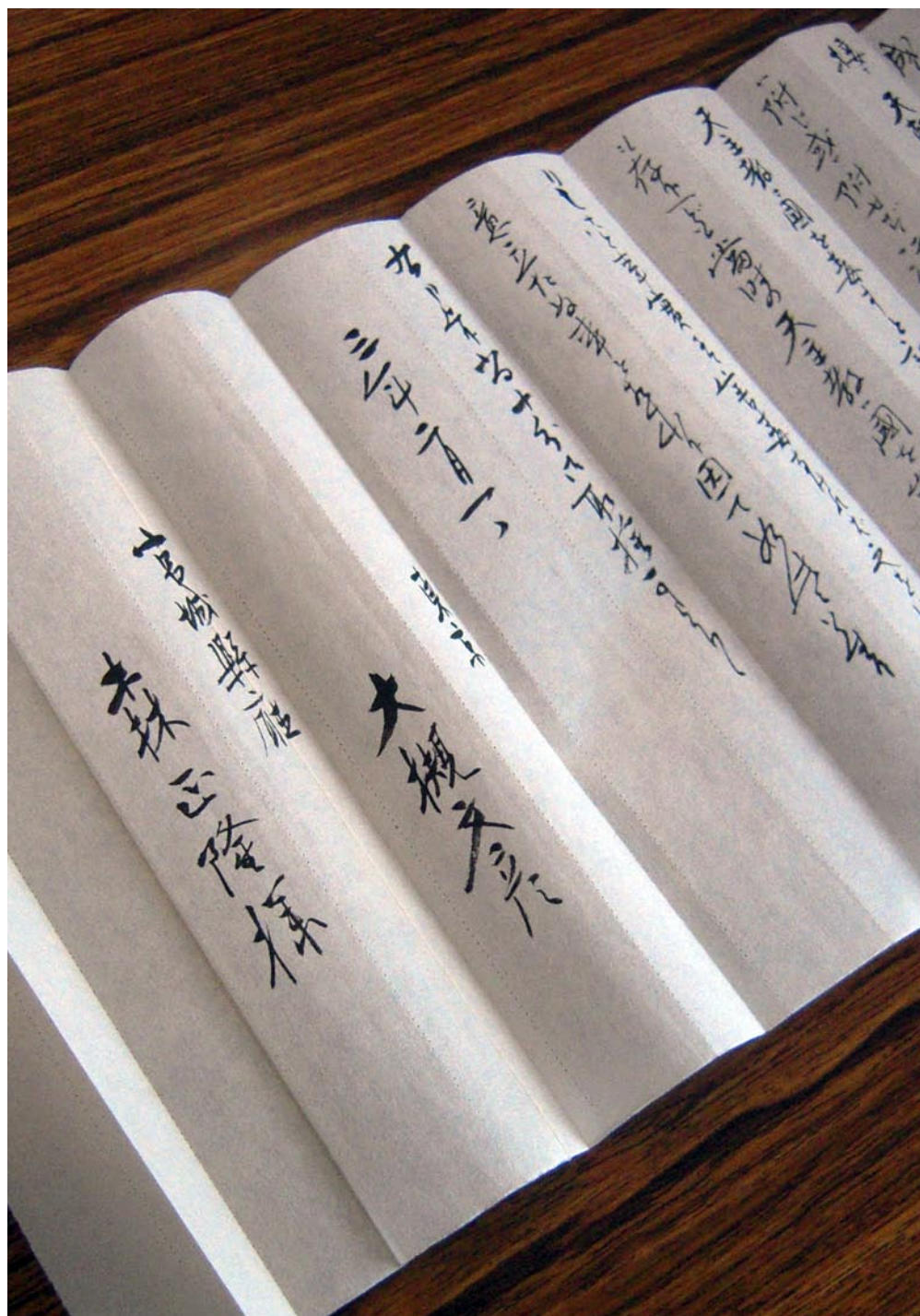
脱藩者の明治

## 研究紹介

高木博志  
「記念祭の時代」

## 寄贈図書のご案内

## お知らせ



「社寺 神社二ノ一 青葉神社奉賛会」【T14 - 33】

大槻文彦から宮城県知事・森正隆へ宛てた手紙。青葉神社昇格願文中の尊称の付方などについて助言しています。

【 】は、当館所蔵資料の整理番号を表しています。

# ワークス

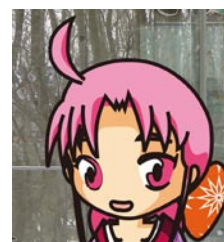
## もっとあなたの身近に！ 公文書館

専門調査員 澁谷 悠子



ねえ みやこちゃん 公文書館ってお客さんに公文書を見せる以外 どんな仕事してるの？

みんなに公文書の魅力が伝わるように展示や講座等の教育普及活動をしてるのよ  
よおーし！ 今日ほりお君に公文書館の教育普及活動について教えちゃうね！！



### ◆宮城県公文書館の抱える問題

公文書館の仕事は、主に①県が作成・取得した公文書等の収集・保存、②資料閲覧サービスの提供、③教育普及活動の三つに分けることができます。これらの活動を通じて、たくさんの人に歴史的・文化的な価値のある資料を活用してもらうことが公文書館の存在理由といっても過言ではありません。

ですが、一般の方にとってまだまだ公文書館の認知度は低く、公文書がこういったものか分からない、どう利用したらよいか分からないという方が多いのも現実です。見た目そのものが美しい茶器・絵画等の博物館・美術館資料に比べ、公文書は日常生活では使わないような難解な文字・用語が書かれた「ちょっと古い冊子」にしか見えません。一見しただけでは公文書の持つ価値が分りにくく、とっつきにくさばかりが目立ってしまいます。また、平成25年（2013）に公文書館が仙台駅近くの仙台市宮城野区榴ヶ岡から泉区紫山に移転する際、市中心部から遠くなるため、利用者数に影響を与えることが予測されました。

公文書館の認知度の低さや利用者数の伸び悩みは他の公文書館でも同様ですが、特に移転後の当館にとって館の存在や公文書のおもしろさを積極的にアピールすること、利用者にとって使いやすい公文書館を目指すことが必要不可欠になりました。

### ◆マスコットキャラクターの作成

公文書館の認知度を高め、所蔵資料の利用促進を図るために、公文書館が紫山に移転した平成25年度からさまざまな試みを行っています。手始めに、公文書の「かたいイメージ」を少しでも柔らかくするため、公文書館の案内役としてマスコットキャラクターを作成しました。明治・大正期の書生をイメージしたほりお君と、女学生のみやこちゃんです。キャラクターのイメージは当館所蔵資料のなかで利用が多く、目玉ともいえる教育関係資料か

ら膨らませ、ネーミングは当館所在地である仙台市の通称「杜の都」から連想しました。現在、この二人の他にも数人のキャラクターがあり、公文書館の「顔」として展示や来場記念品のポストカード・しおり、だより、HP等で活躍しています。

#### ◆出張企画の試み

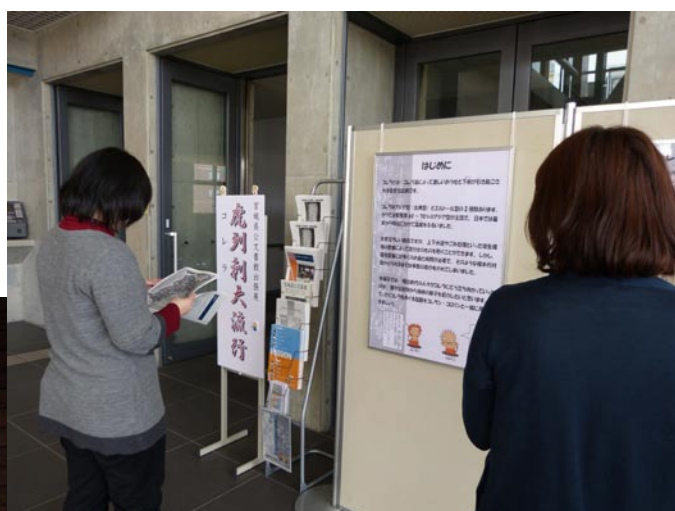
教育普及活動で特に力を入れているのが、県庁や地方合同庁舎、小学校へのお出張展示と大学でのお出張講座です。公文書館の展示は館内で行っている常設展示の他、年に2～3回、公文書館を飛び出して館外の施設でお出張パネル展示を行っています。展示用の設備を持っていない館外施設では、資料保護の観点から公文書原本の展示はできませんが、展示会場ごとに内容や取り上げる資料を変えたパネルを作成して対応しています。展示スペースに何気なく立ち寄った方にも見てもらえるよう、展示の要所ごとに公文書館のマスコットキャラクターを登場させたところ、これまで歴史にあまり興味がなかった方や小・中学生の方にも足を止めて見てもらえたようです。

大学でのお出張講座では、日本近現代史専攻のゼミがある東北大学や宮城学院女子大学等の授業にお邪魔し、卒業論文や修士論文の執筆を控えた学部生・大学院生向けに公文書館の活用方法をレクチャーしています。公文書館の概要や資料の探し方について説明した後、論文で利用できそうなおすすめ資料等を紹介することで、公文書館への来館と所蔵資料の利用につなげることを目的としています。

これらの企画はまだ始まったばかりですが、来年度以降も試行錯誤を重ねながら、引き続き県庁や図書館、博物館へのお出張展示や、大学でのお出張講座を開催する予定です。みなさんの近くに公文書館がお邪魔することがあるかもしれませんので、その際はぜひ足をお運び下さい。



宮城学院女子大学でのお出張講座



大崎合同庁舎でのお出張パネル展

# 公文書レポート

## 脱藩者の明治

専門調査員 栗原 伸一郎

今年の大河ドラマは、幕末維新の長州藩。吉田松陰・高杉晋作など数々の歴史上の「有名人」が登場します。では当時の仙台藩にどのような人物がいたのか、皆さんはご存知でしょうか。「有名人」でなくとも、仙台藩にも波瀾万丈の人生を送った藩士が沢山います。以下では、後藤正左衛門（佐和正）<sup>ごとうしょうざえもん さわただし</sup> という藩士の足跡について、当館所蔵の「東京日記権大参事方」【M3 - 18】や『仙台戊辰史』、年譜（中原英典「佐和正・「東野年譜」—明治警察史資料—」『警察研究』493・494、1971年）などを利用して紹介します。

後藤正左衛門は弘化元年（1844）に佐和家の次男として生まれ、後藤家（大番士、禄高45石）の養子となりました。藩校の養賢堂で頭角を現し、奉行（家老）の書記も務めていた後藤は、「別段御用」のため、慶応3年（1867）9月に京都に向かいました。そして、徳川幕府の消滅、新政府の誕生といった激変する政局を目撃することになります。後藤は対外交渉担当者の一人として情報収集や政治工作を行い、慶応4年（1868）閏4月には太政官の貢士<sup>こうし</sup>（藩代表として議事に参加する者）になりました。

その頃、仙台では「朝敵」とされた会津藩を助けるため、仙台藩を中心に奥羽越列藩同盟が結成されました。そして、新政府の中心であった薩摩藩や長州藩に対する不信感を持っていた仙台藩は、戦争へと突入していきます。後藤は、木戸孝允など政府高官を暗殺しようとしませんが果たせず（「仙台藩記」『復古記 第六冊』）、弘前藩士の仲介で敦賀から船に乗り、津軽・南部を経て7月に仙台に戻りました。その後、寒風沢奉行<sup>さぶさわ</sup>となり、仙台にやってきた旧幕府海軍の榎本武揚などを応接しました。

9月、仙台藩は降伏しました。そして、首脳部が交代し、「叛逆」藩士たちの捕縛が始まりました。後藤は10月に逮捕され、罪状も明らかにされぬまま揚屋（拘置所）入りを命じられました。結局、彼は「宿病」と「流行之疾病」を理由に、明治2年（1869）3月に釈放されましたが、ここで藩を揺るがす大事件が発生します。4月、政府は仙台藩内に不穏な動きがあるとして鎮撫軍を派遣し、その結果、一部の藩士に切腹や家名断絶が命じられたのです。再び逮捕の手が迫った後藤は、脱藩して東京へ向かいました。このため、後藤も家名断絶の処分を受け、家禄を没収されました。最終的に家禄没収者は約40名となり、後藤のような家禄100石以下の藩士が半分以上を占めました（「仙台藩士族籍」【M2 - 5】）。首脳部の他にも、実務を担っていた人々が数多く処分されたのです。

東京に出た後藤は、谷中や浅草などに潜伏しました。また一時は、同じく脱藩した黒川剛（大童信太夫）<sup>おおわらしんだゆう まつくらまこと</sup> や松倉恂と共に、伊香保温泉や草津温泉に出向いています。そうしたなか後藤は、集議院（政府の諮問機関）の議員であった日向飢肥藩の稲津濟と、富山藩の林太仲<sup>おび いなづわたる</sup> という二人の「親友」に再会しました。稲津も林も後藤と同じく、かつて貢士を務めていた人物です。事情を知った稲津と林は、後藤を復讐させるべく、仙台藩大参事（知事の下官）の遠藤文七郎と懇意であった富山藩の田村節蔵に相談しました。そして、田村

の助力を得て遠藤に働きかけました。その結果、遠藤の内諾を得た後藤は、明治3年(1870)3月に東京藩邸に出頭し、脱藩を謝罪しました。

その際、後藤は贖罪の一環として「四方遊歴修業」し、「天下英才之士及諸大家」と交わって「活学」したいとの希望を伝えました。そして、罪を許し、堂々と「仙台者」と名乗って藩邸に出入りできるようにしてほしいと嘆願しました。これを受けて、5月に仙台藩庁である勤政庁は、後藤の復籍を許可し、同時に遊歴を許可しました。

藩邸には、脱藩していた人々が続々と出頭してきました。黒川剛と松倉恂は、閏10月に出頭し、謝罪しました(「東京来状」【M3-11】)。『福翁自伝』に記されているため、よく知られていますが、彼らは親密な関係にあった福沢諭吉の仲介で出頭しています。出頭した人々は、嘆願書を提出し、即座に、あるいは謹慎を経て復籍が許可されました。

後藤たちがすぐに復籍することができた背景には、それまで培ってきた人間関係の他に、政府の方針が変化したこともありました。2月には、政府が仙台藩に、蟄居などの処分を命じた藩士を許す旨を通達しており、既に後藤が出頭した時には、脱藩して家名断絶になった者も、罪を問わずに復籍させる方針を示していました(「仙台藩庁日記」【M3-16】)。

ここから後藤は、官僚としての道を歩むこととなります。復籍が許可された直後の明治3年6月、後藤は弾正台(政府の監察機関)に出仕していた稲津済の推挙によって、史生(書記官)に任じられました。その際、藩から「格別之訳」として支度金25両をもらっています。その後、明治5年(1872)から司法省に勤め、明治7年(1874)以降は警視庁の創設に関わりました。明治12年(1879)にはヨーロッパに派遣され、警察制度を調査するなど「書記局長」として活躍し、明治19年(1886)に内務省書記官に転任しました。

ところで、明治初年に家名断絶となった旧藩士の家は、その後、士族ではなく平民とされました。後藤正左衛門は、明治6年(1873)に養祖父の後藤帰速と相談した上で実家の佐和家に戻り、佐和正と改名していますが、その背景には、彼の脱藩、家名断絶といった問題があったものと思われます。

徐々に家名断絶となった旧藩士の復権が進んでいきました。明治16年(1883)、政府は「叛逆首謀」として斬首された奉行の但木土佐と坂英力の遺族に、家名を再興する旨を伝えるとともに(「戸籍綴」【M16-34】)、その他の処分者についても調査を行っています。佐和正の兄・静修は「平民後藤帰速親類」として、明治3年に後藤正左衛門が言い渡された内容と、彼が後藤家から佐和家に戻った旨を届け出しています。ちなみに届け出た先は、仙台区長となっていた松倉恂でした(「戸籍綴」【M17-48】)。明治22年(1889)4月、大日本帝国憲法が公布されたことによる大赦によって、処分された旧藩士やその遺族に対して家名再興が許され、彼らは平民から士族となりました。6月には、松倉邸や伊達家別邸に関係者が集まり、祝宴が催されました(『奥羽日日新聞』明治22年6月11日・15日)。

そうしたなか、佐和は明治22年12月に青森県知事に任命されました。青森県が創設されて以来しばしば長官が交代していたなかで、在任期間は「異例」の7年にわたり、明治29年(1896)8月に知事を辞める際には、県参事会が佐和の留任を求めて、総理大臣などに陳情を行っています(『青森県議会史 自明治二十四年至大正元年』、1965年)。

脱藩・逃亡者から警察官僚・知事へと、波瀾に富んだ生涯を送った佐和は、大正7年(1918)に75歳で死去しました。

# 高木博志「**紀念祭の時代 —旧藩と古都の顕彰—**」

(佐々木克編『明治維新期の政治文化』思文閣出版 2006年)

専門調査員 鈴木 琢郎

ゆるキャラ「せんとくん」で話題となった平成22年(2010)の平城京遷都1300年記念事業や、学校等での創立100周年記念など、長くは100年、200年、1000年、短くても10年、30年、時には15年などの場合もありますが、切りの良い数字を充てた「〇〇周年記念祭」「〇〇周年記念事業」は広く一般的に行われる行事の一つです。

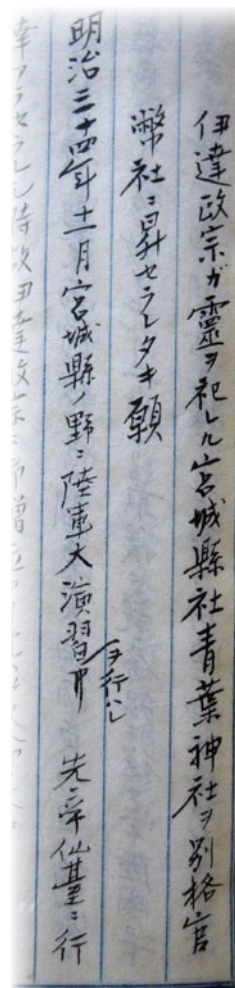
今回、ご紹介する高木博志さんの研究は、このような「〇〇年記念祭」に注目して、いわゆる「お国自慢」の歴史を明らかにしています。明治22年(1889)2月に大日本帝国憲法が公布され、その時の恩赦により<sup>おんしや</sup>戊辰戦争等で朝敵だった人たちは正式に許されることになりました。西南戦争の<sup>ぼしん</sup>主導者、西郷隆盛もその一人です。無論、戊辰戦争時における<sup>おうえつれつぱんどうめい</sup>奥羽越列藩同盟の盟主であった<sup>めいしゆ</sup>仙台藩も、ようやくその汚名を払われたのです。

一方、憲法公布と同年に、東京市では東京開市三百年祭を開催し、公に幕府<sup>けんしやう</sup>顕彰を始めます。この種の祭りは、日清・日露戦争の戦勝記念という性格も加わり、全国的に行われるようになります。仙台では明治32年(1899)に仙台開府三百年祭、そして昭和10年(1935)には藩祖政宗公三百年祭が行われました。戊辰戦争の汚名が払われたこともあり、大手を振って「仙台」「伊達政宗」を自慢できたのです。

但し、この祭りは純粋に政宗の偉業を称えようとしたものではありません。この祭礼開催に関わって政宗を祀る<sup>べつかくかんべいしや</sup>県社の青葉神社を別格官幣社に格上げしようとする運動がありました。その時の国に対するセールスポイントは、戦国武将伊達政宗のサクセスストーリーではなく、いかに朝廷に対して功績があったかでした。また国語辞典『言海』の著者でもある<sup>おおつきふみひこ</sup>大槻文彦は、戊辰戦争での<sup>げんかい</sup>仙台藩の<sup>ほんしゆ</sup>挙兵は「尊王の大義より出でたのである」とも言っています。

郷土のヒーローが、実は朝廷への貢献著しい人物であり、それが郷土の誇りとなるのです。そして、このような意識を高める「祭り」が日清・日露戦争の戦勝記念と関わって開催されたのです。ここで、それまで「<sup>ほんしゆ</sup>藩主・<sup>ほんそ</sup>藩祖」が「一番偉い殿様」だった一般の人々は、一面的な、または作られた「藩主・藩祖の歴史」を通じて天皇・朝廷とつながったのです。それは天皇のもとでの「臣民」の創出でした。

「祭り」とは一般的には復古的なものです。しかし、高木さんの見た「祭り」は近代化を推し進めた要因の一つとして現れています。



【T14-33】

## 寄贈図書のご紹介

平成 26 年 11 月から平成 27 年 1 月までに、関係各位より寄贈された図書・雑誌の一部を紹介します。

仙台郷土研究会	『仙台郷土研究』第 39 巻第 2 号（通巻 289 号）
宮城県石巻高等学校	『宮城県石巻高等学校創立 90 周年記念誌 鱈陵』
東松島市	『東松島市からのメッセージ 震災を語り継ぎ未来を創造するために』
東北大学東北アジア研究センター	『よみがえる江戸時代の村田 山田家文書からのメッセージ』
NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク	『災害を超えて 宮城における歴史資料保全 2003—2013』
尼崎市立地域研究史料館	『地域史研究 尼崎市立地域研究史料館紀要』第 114 号
さいたま市	『さいたま市新聞記事目録 平成 24 年度』
徳島県立文書館	『徳島県立文書館紀要』第 6 号
福山市教育委員会	『東京阿部家資料』文書編 4
富山県公文書館	『富山県公文書館文書目録』歴史文書 29
同	『富山県公文書館年報』27 号
同	『とやまの鉄道物語 平成 26 年度企画展』
筑波大学人文社会系中目研究室	『近代史料研究』第 14 号
綾達子	『大泉養吉歌集』
福井県文書館	『福井県文書館年報』第 11 号
新潟県立文書館	『新潟県立文書館年報』第 22 号

このほか、たくさんの関係機関からの寄贈がありました。ありがとうございました。

## お知らせ

### 公文書館だより バックナンバーのお知らせ

以下のアドレスから『公文書館だより』のバックナンバーをダウンロードできます。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/tayori2.html>

### デジタルデータの頒布

村絵図面（一部）のデジタル画像データの頒布を始めました。CD-R 焼付のみでの頒布となります。  
（1 枚につき 5 点まで 1 枚 50 円）

### 『宮城県公文書館企画展示図録集 01 ～榴ヶ岡時代～』

榴ヶ岡時代に開催された企画展の図録が CD-ROM になりました。（1 枚 50 円）

### 宮城県公文書館だより 第 27 号

平成 27 年（2015）2 月 10 日 発行

編集・発行 宮城県公文書館

〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山 1-1-1

Tel 022 (341) 3231 Fax 022 (341) 3233

E-mail [koubun@pref.miyagi.jp](mailto:koubun@pref.miyagi.jp)

HP <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/>

